

地域らしい場所の空間造形と 建築の存続・更新に関する研究

研究内容

建築・住宅・ランドスケープデザインなどの総称としての空間造形において、愛着・風合い・記憶など、時間とともに深まる「経年醸成価値」を根本に置き、地域らしさとあじわいを探求するルーラルデザインのありようを探求している。建築設計から計画調査、それらの支援協力まで、宮城県内・東北地方各地の文化財保存、景観計画、設計業務審査、建築士団体における協力等に携わってきた。自身の取り組みとしては、現代住宅の設計、古民家の再生、歴史的建造物の保存、共同菜園の創出、地元石材を活かした津波被災地の場づくりなどがある。近年の成果として、塩竈勝画楼の保存や石巻牡鹿地区の慰霊碑・モニュメントなどが挙げられる。2019年末に急浮上した宮城県美術館の移転問題においては、存続を求める県民ネットワークの事務局長を務めている。



解体寸前から保存へ動いた一森山東端の勝画楼

地域・産学連携の可能性

上に挙げたいずれもが、地域の官・民・産との対話・相談から連携に至ったものである。官の例として、20年前に重要伝統的建造物群保存地区に選定された岩手県金ケ崎町では嘱託職員を務め、基盤制度の作成に協力し、近年は宮城県・石巻市・大崎市・塩竈市等において建築士審査会、都市計画審議会、景観計画、建造物保存等の各種委員等を務めてきた。民の例では、まち遺産ネット仙台、アリスの庭クラブなど市民活動の主導、未利用公有地を活かした共同菜園「まちなか農園藤坂」の創出実践と基本計画などを手がけてきた。産の例では、地元石材組合からの協力依頼による慰霊碑の設計、国選定石盤葺技術の記録調査、仙台市内の特殊建築部位の3次元デザインなどがある。地域の大切な場所を創出する様々なデザインについて、様々なセクタからの相談に応じることが可能である。



井内石銘板と時刻計モニュメントからなる牡鹿慰霊碑

このテーマに関連する
東北SDGs研究実践拠点

地域・地場産業振興研究拠点

このテーマに関連する
プロジェクト研究所

生業景デザイン研究所

このテーマに関連するSDGs開発目標



ライフデザイン学部 生活デザイン学科 建築設計、地域計画、建築歴史地理

大沼 正寛 ONUMA Masahiro

教授、博士（工学）

URL <https://ru-cas.jp/>

執筆論文

大沼正寛「散逸した地域遺産を再構成するー石巻市東岸の天然スレート民家・集落をめぐる」
日本災害復興学会誌「復興」第9号 Vol.5 No.3, pp41-48, 2014.3

